

ミュージアムニュース



広島県立歴史博物館
Hiroshima Prefectural Museum of History
蔵 草 戸 千 軒 ミ ュ ー ジ ア ム

第149号



くさどっきー せんちゃん

Hiroshima Prefectural Museum of History

令和8年度 秋の企画展

大本山 佛通寺展

会期 令和8年 10月9日(金)～ 11月29日(日)

前期 10月9日(金)～ 11月8日(日) 後期 11月10日(火)～ 11月29日(日)



広島県重要文化財「木造大通禪師坐像」(左)・「木造佛通禪師坐像」(右) 室町時代、佛通寺蔵 画像提供:三原市教育委員会

佛通寺の寺宝を30年ぶりに大公開 !!

佛通寺(三原市高坂町許山)は、応永4年(1397)に小早川春平が愚中周及を招いて創建した、広島県を代表する臨済宗の古刹で、佛通寺派大本山として知られています。

本展では、間もなく創建630周年を迎える佛通寺から当館に寄託された貴重な文化財をとおして、佛通寺の歴史と文化を紹介します。佛通寺に係る大規模な展覧会は、平成8年(1996)に三原市で開催されて以来となります。佛通寺の秋の紅葉とともに、本展もぜひ御覧ください。

展示の紹介は次のページへ ▶▶

佛通寺の創建



重要文化財
「絹本着色大通禪師像」
室町時代、当館寄託
〔展示期間〕 前期



「佛通禪師頂相」
江戸時代

美濃国(岐阜県)出身の愚中周及(1323~1409)は、13歳で京都に上り、夢窓疎石のもとで出家しました。19歳の時に天龍寺船に便乗して中国・元に渡り、曹源寺(浙江省寧波市)の月江正印のもとで足掛け2年、金山寺(江蘇省鎮江市)の即休契了のもとで足掛け8年修行した後、29歳で帰国しました。

その後、都を離れて山林修行に励み、貞治4年(1365)に天寧寺(京都府福知山市)を開き、応永4年(1397)には小早川春平の懇請により佛通寺の開山となりました。「佛通寺」の寺号は、師である即休契了の諡号「佛通禪師」によるものです。

愚中周及の名声は、室町幕府4代将軍足利義持にも伝わり、応永16年(1409)には後小松天皇から紫衣を許され、同年に天寧寺で亡くなると、「佛徳大通禪師」の諡号が贈られました。

※ 諡号とは、死後に生前の事績を顕彰して贈られる尊号のこと。
※ このコーナーで紹介する文化財は全て佛通寺蔵です。

佛通寺の興隆と支えた人々

佛通寺は、愚中周及が亡くなった後も歴代の小早川家による庇護を受けて繁栄し、嘉吉元年(1441)と文安元年(1444)には足利将軍家の祈願所とされました。

応仁の乱の影響などで寺勢が一時衰えますが、小早川隆景は堂宇の再建、修築に特に尽力し、慶長元年(1596)には含暉院も修築されました。雲谷等顔による含暉院障壁画も、この時に制作されたと考えられています。広島藩主浅野家も佛通寺を庇護して堂宇の修築に努め、各地の文人たちもこの地を訪れました。

佛通寺の最盛期には、山内に塔頭が88、末寺は12か国に三千寺を数えたとも言われています。



三原市重要文化財
「紙本着色小早川隆景像」
慶長13年(1608)、当館寄託

指定後初公開



広島県重要文化財「行体山水図」(「含暉院障壁画」のうち)雲谷等顔筆、桃山時代、当館寄託 〔展示期間〕 後期

佛通寺所蔵の「含暉院障壁画」29幅とマクリ8枚が、納め箱とともに、令和7年(2025)1月9日に広島県重要文化財に指定されました。本展では、その一部を前・後期に分けて紹介します。

佛通寺の書画

佛通寺には、鎌倉時代の紺紙金泥法華経、室町時代や中国の明時代の絵画や書など、貴重な寺宝が伝えられています。その中には、目を見張るほどの技術で作られた逸品も含まれています。



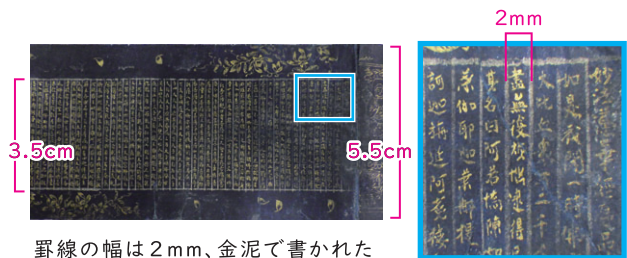
「釈迦三尊十六善神図」
室町時代



「芥子に蝶図」伝 銭舜举筆
中国・明時代
〔展示期間〕前期

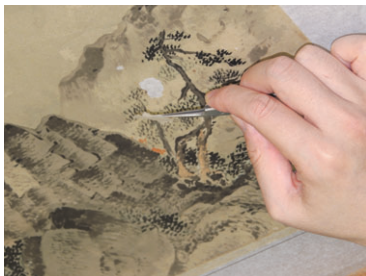


広島県重要文化財「紺紙金泥細字法華経」
伝 弘法大師筆、弘安6年(1283)、当館寄託



罫線の幅は2mm、金泥で書かれた文字の大きさはわずか1~2mmしかありません。

寺宝を守り伝える ～佛通寺による保存修理の取組～



欠損部の補修



補彩

文化財を後世に伝えていくためには、定期的な修理が欠かせません。佛通寺では、貴重な寺宝を守るため、保存修理にも取り組んでいます。

本展では、このような取組についても紹介します。



三原市重要文化財「紙本著色御許山勝興図」(修理後、部分) 岡岬山筆、安永6年(1777)、当館寄託 画像提供: いずれも有限会社墨仙堂

令和8年度 秋の企画展

大本山 佛通寺展

- 開館時間 / 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで) ※ 初日は午前10時から
- 休館日 / 月曜日(10月12日(月・祝)、11月23日(月・祝)は開館)、10月13日(火)、11月24日(火)
- 入館料 / 一般1,000円(800円)、大学生・高校生500円(400円)、中学生・小学生350円(280円)
※ ()は団体料金(20名以上) ※ 文化の日(11月3日)は無料。
※ ひろしま教育ウィーク期間中(11月1日～7日)は小・中・高校生は無料。

関連行事



開催記念講演会（博物館大学）

無料・予約不要

開催日	演題	講師
10月18日（日） （博物館大学第5回）	小早川隆景と三原・佛通寺	九州大学大学院比較社会文化研究院特別研究者 光成 準治 氏
10月31日（土） （博物館大学第6回）	佛通寺伝来の絵画	広島市立大学芸術学部准教授 城市 真理子 氏
11月14日（土） （博物館大学第7回）	佛通寺の建造物を読み解く	広島県西部建設事務所建築課 千原 美歩 氏

※ 時間はいずれも午後2時～午後3時30分（講演会により曜日が異なりますので御注意ください。）
※ 会場はいずれも当館講堂（開場はいずれも午後1時30分から）



みんなで坐禅体験

無料・事前申込（先着順・各回20名）

開催日	時間	内容
10月24日（土）	① 午前11時～正午 ② 午後2時～午後3時	佛通寺派の住職のお話を聞きながら、 畳での坐禅とイス坐禅を体験します。

※ 会場はいずれも当館研修室
※ 当館HPから広島県電子申請システムを使用してお申込みください。詳しくは当館HPを御確認ください。

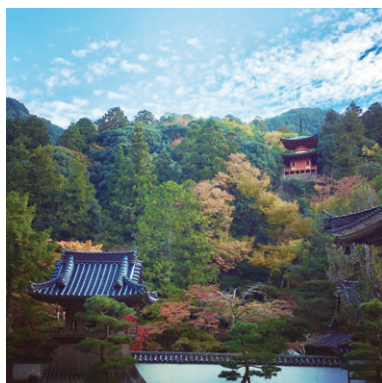


展示解説会

企画展の入館料が必要・予約不要

開催日	時間	解説
① 10月11日（日） ② 10月25日（日） ③ 11月8日（日） ④ 11月22日（日）	午後1時30分～午後2時30分	当館学芸員

※ 会場はいずれも当館企画展示室



画像提供：佛通寺

頼山陽史跡資料館 展示の御案内

頼山陽史跡資料館では、今年度も様々な展覧会を企画しています。
ここでは秋の展覧会を御案内します。

企画展 澤三石、清逸の人、 — 広島藩雅人伝 其壺 — 令和8年 9月19日(土)～11月8日(日)

江戸時代の広島にはどんな人がいたのだろうか？今回、頼山陽史跡資料館では、広島藩士であった澤三石という人物に注目して展示を行います。澤三石は江戸時代後期(今からおよそ200年前頃)の広島藩士であり、頼山陽やその子供たちと同じ時代を生きた人物です。若いころは、藩主の小姓(身の回りに仕える家臣)として仕え、後に藩の政治を行う年寄役まで昇進しています。一方で、書画に優れ、「広陵(=広島)第一之人物」とも評された文化人でもありました。現代でも優美且つ品格の高い作品が残っています。

本展では、彼の書画作品や歴史資料などから、人物像や目指した生き方を浮かび上がらせていきます。三石の面白いところは、彼自身が専門の書家や画家ではないにもかかわらず、生涯を通して、書画に関わり続けているところです。副題の「広島藩雅人伝」は、「江戸時代の広島を人物からのぞいてみよう」ということがコンセプトでもあります。澤三石という人物を通して、江戸時代の広島を眺めるとともに、豊かな生き方とは何かといったことにも、思いを馳せていただく機会にできればと考えています。

澤三石 自賛《紅梅図》
文政5年(1822) 個人蔵

紅梅を描いた作品。三石は晩年に至るまで、梅を描き続けています。これは51歳の時の作品です。



- 会 場 / 頼山陽史跡資料館(広島市中区袋町5-15)
TEL:082-298-5051
- 開館時間 / 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 / 月曜日(祝休日は開館し、翌平日休館)
- 入館料 / 一般300円(240円)、大学生220円(170円)、
小・中学生150円(120円)※()は20名以上の団体料金
- 関連行事 / 展示解説会(通常の入館料が必要です。)
9月26日(土)、10月10日(土)、10月31日(土)
いずれも午後1時30分から



▲頼山陽史跡資料館
ホームページ

博物館アラカルト 35

火葬の始まり —火葬の歴史をたどる—

はじめに

中世の港町・市場町である草戸千軒町遺跡からは、約40基のお墓が、町の中心部と推定されている「中心区画」から主に発見されています。草戸千軒のお墓には火葬墓(15基)と土葬墓(20基程度)の両方が見られます。どうして同じ時代・同じ地域でありながら、弔いの方法が異なるのでしょうか？ 今回の博物館アラカルトでは、その疑問を考える材料として、日本における火葬の変遷を見ていきたいと思います。

1 火葬の始まり

焼けた人骨は縄文時代の遺跡からも発見されています。では、遺体を焼いて骨を拾い、壺に収骨して埋葬する、現在のような火葬はいつ頃から見られるのでしょうか？

日本において記録で確認できる火葬第1号は、道昭(629-700)という僧でした。平安時代に編纂された歴史書『続日本紀』の文武天皇4年(700)の記述に、弟子らが道昭を栗原(現在の奈良県桜井市)で火葬したと書かれています。ちなみに道昭は遣唐使として中国に渡り、『西遊記』の三蔵法師のモデルとして知られる玄奘に師事した高僧でした。火葬第2号は同じく『続日本紀』に記録されている持統天皇(645-702)で、大宝3年(703)に火葬されました。

なぜ火葬が採用されたのでしょうか？ お釈迦様が火葬されたことから仏教思想の影響と考えられがちですが、火葬を採用した事情はもっと複雑だったようです。仏教伝来(6世紀半ば)とともに火葬も伝わったとされていますが、それだけでは説明できません。



【写真1】中世の火葬墓（石積墳墓）
（草戸千軒町遺跡）

2 古代の火葬事情

持統天皇が火葬された理由は、遺詔(遺言)の一つであった薄葬(お墓の規模や副葬品などを生前の地位や財力より意図的に簡略化した葬法)に従ったためと考えられています。大化2年(646)には薄葬令が出されており、お墓の規模などに制限が設けられた時代でもありました。そのためか、持統天皇以降、古代の天皇の中には火葬された方が一定数みられます。また、天皇が火葬を採用した影響で、貴族層や社会的に高い階層の人々の間でも火葬が広まりました。一方で、仏教への信仰が厚かった厩戸皇子(聖徳太子)や聖武天皇(701-756)は土葬されており、必ずしも仏教の影響だけで火葬が採用されたわけではなさそうです。

さらに、古代に火葬が採用された理由の一つに帰葬があります。帰葬とは、赴任先や旅行先で亡くなった人を故郷に戻して埋葬することです。律令国家では貴族だけでなく、民衆も納税や労役のために故郷を離れて移動せざるを得ませんでした。成人男性の火葬された遺骨は約2kgと言われていることから想像できるように、火葬の長所の一つは遺体の移動が容易になることです。実際に帰葬と判明している火葬墓も発見されています。

3 中世の火葬事情—草戸千軒町遺跡の様子—

中世になると、武士を中心に火葬の風習が広がり、地方でも火葬墓が多く発見されるようになります。これは、平安時代の貴族のお墓の風習が民衆にも広がったためと考えられています。また、火葬が採用された理由の一つに、霊場れいじょうへの納骨があります。山や山の遠く彼方が祖先の魂が鎮まる場所と信じられ、そういった場所が徐々に霊場等となり、遺骨等を納めるようになりました。その他に、一族や個人の事情、社会的身分等といった様々な理由が絡み合い、それらが影響して火葬を採用するかどうか決定したと考えられています。



【写真2】集石墓（草戸千軒町遺跡）

草戸千軒町遺跡からは、13世紀～16世紀初頭を通じて火葬墓が発見されており、草戸千軒にも火葬を採用した人々がいたことが分かります。火葬を一族単位で採用していたのか、何か共通点のある人々が採用していたのかはまだ分かっていませんが、火葬墓にも時期ごとの違いが認められます。13世紀代の火葬墓は盛り土のある墳丘状の石積墳墓（写真1）が主流で、14世紀以降は盛り土のない石を集めただけの集石墓いしづみふんぼ（写真2）が主流になっていきます。全国的に見ても、草戸千軒と同様に集石墓に火葬骨が埋葬される事例が見られます。

4 近世の火葬事情—土葬への転換—

中世末から座棺ざかん（遺体を座った姿勢で埋葬するための棺）・土葬が見られるようになり、17世紀から18世紀にかけて主流となりました。草戸千軒町遺跡でも16世紀頃に座棺の土葬墓が見られるようになります。

将軍家では2代徳川秀忠正室ひでただの崇源院すうげんいん（江）（1573-1626）まで、天皇では後陽成天皇ごようせい（1571-1617）までが火葬されていましたが、その後土葬に変わっていきました。土葬への転換には、江戸時代に武士層に広まっていった儒教の影響が大きいとされています。儒教では、魂が戻る遺体を損なうことを嫌うため、土葬を好みました。この考えが、社会階層の高い人々から武士や民衆へ徐々に広がったと考えられています。

また、同じ町の中でも、墓地によっては火葬墓が多く見られる墓地もあります。例えば、江戸では特に浄土真宗の寺院の墓地で火葬墓の割合が高いことが指摘されており、仏教の宗派も火葬の採用に影響していました。

おわりに

近代になると、公衆衛生や埋葬地の不足、行政の整備により都市部を中心に火葬が広まり、第二次世界大戦以後は急速に火葬が主流となっていきました。現在では火葬後の遺骨の扱いも多様化し、お墓への納骨だけでなく、樹木葬や散骨、墓じまいなども検討されるようになっていきます。まさに弔いの方法の転換期に当たるのかもしれませんが。これからの日本のお墓がどうなっていくのか、墓参りや墓じまいの際に考えるきっかけになれば幸いです。

博物館 掲示板

博物館大学

※時間はいずれも午後2時～午後3時30分

回数	演 題	講 師	開 催 日
第8回	発掘は特別じゃない ー学校から広がった考古学の世界ー	静岡大学大学院情報学領域 准教授 村野 正景氏	2月20日(土)
第9回	土偶が語る考古学 (講演×公演)	立教大学文学部准教授 高橋 健氏 大道芸人 白鳥 兄弟	3月6日(土)

公開講座

※時間はいずれも午後2時～午後3時30分

共 催	演 題	講 師	開 催 日
備陽史探訪の会	福山市内の仏像について	福山市文化振興課 文化財担当課長 榎 拓敏氏	9月12日(土)
芸備友の会	横穴式石室の地域性	広島県立歴史民俗資料館 学芸員 井上 翔太郎氏	11月28日(土)

近世文化展示室

	8月28日(金) ～10月25日(日)	10月30日(金) ～12月20日(日)	1月2日(土) ～2月28日(日)	3月5日(金) ～4月25日(日)
菅茶山の世界	[合同展示] 備後名所刷版木 と鞆の浦	不屈の儒学者・ 門田朴斎	菅茶山と 「好古学」	[合同展示] 菅茶山関係資料 の保存修理と 福山藩関係資料
守屋壽 コレクション		仏教と世界地図	西洋が伝えた 近世日本	

ミニ展示

9月1日(火) ～10月25日(日)	10月27日(火) ～12月20日(日)	12月22日(火) ～2月14日(日)	2月20日(土) ～4月18日(日)
草戸千軒の 人々の遊び	古代朝鮮半島の やきもの	草戸千軒の冬の過ごし方 「暖まる」	中世文書を読む⑪ 杉原元盛の文書



ナイトミュージアム 開催予定!

9月(後半)～12月の土曜日・日曜日・第3金曜日(予定)

※詳細は当館ホームページをご覧ください!



広島県立歴史博物館 ミュージアムニュース 第149号

編集・発行

令和8年9月9日

〒720-0067 広島県福山市西町二丁目4-1
TEL 084-931-2513 FAX 084-931-2514
e-mailアドレス rhksoumu@pref.hiroshima.lg.jp
ホームページ [https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/rekishih/X\(エックス\)](https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/rekishih/X(エックス)) https://twitter.com/hiroshima_prhk
Instagram https://www.instagram.com/hiroshima_history_museum/



広島県立歴史博物館
Hiroshima Prefectural Museum of History
草戸千軒ミュージアム



▲ホームページ



▲X(エックス)



▲Instagram